

教育方針	「どこに出しても恥ずかしくない人間になれ」 「国家社会の役に立つ人間になれ」	重点目標	生徒一人ひとりの夢や希望を叶える教育の推進 － 自らの成長を実感できる生徒の育成 － ○けじめと思いやりの心を育む学校 ○自ら学ぶ意欲・態度を育てる学校 ○地域とともにある学校 ○安全・安心な学校
	【指導方針】 一人ひとりの生徒を見つめ、励ましを与え、たくましく生きる力を育む教育の推進 ・豊かな心情をもった節度のある人づくりの推進 ・自ら学ぶ態度を身に付けさせる教育の推進 ・チャレンジ精神を育む教育の推進 ・健康で明朗な心身の育成を図る教育の推進		

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
1 学校 経営	地域に開かれた学校、及び地域貢献活動の推進と学校教育活動の公開	・地域とともにある学校を推進するため、各種公開講座の実施、地域イベントへの積極的参加、教育関係団体等への施設設備の解放等を行う。 ・ホームページに毎日の教育活動を公開し、生徒が生き生きと活動している様子を掲載する。 (1日閲覧数平均 A:600 B:400 C:200 D:150 E:100) ・各課の定期刊行物を速やかに掲載する。	B	・感染症下ではあったが、地域とともにある学校を推進するため、各種公開講座の実施、地域イベントへの参加昨年度より実施できた。 ・教育関係団体等への施設設備の解放は感染症拡大予防の観点から実施をしなかった。 ・ホームページの閲覧数 1日平均308カウントであった。一か月平均ホームページへのアップ数は32であり、毎日1記事はアップできた。	・引き続き、各種開放講座の実施、地域イベントへの参加を積極的に行い、地域とともにある学校づくりを、ワークライフバランスを考えながら進めていく。 ・ホームページの更新者に偏りが見られるので教職員全員が月に最低1回は記事をアップするなどの策が必要である。
	校務ICT化の推進による業務改善	・校務支援システムと各種アプリを活用して校務の軽減を図り、生徒の指導の充実に努め、働き方改革を推進する。	A	・体感的には校務支援システムと各種アプリの活用によって校務の効率化を進めることができ、教職員の在校時間が少なくなっていると思われる。	・校務支援システムと各種アプリの活用を進めていく。また、教職員1人1台端末を確実に整備していく。
	P T A 活動の充実	・学校行事の工夫により、保護者の多数参加を達成させた。	A	・感染症下ではあったが、保護者の参加はよくできていた。	・引き続き保護者が参加したいと思う工夫を行っていく。
2 学習 指導	教科指導の充実	・生徒1人1台端末を使って、分かる授業、達成感のある授業に努め、学習に対する興味・関心を持たせる授業に取り組む。 ・「主体的・対話的で深い学び」につなげるためにICT機器を積極的に活用した授業改善に努める。 ・教員のICT機器活用のスキルアップのための研修会を年間3回実施する。 (A:3回 B:2回 C:1回) ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について、新学習指導要領に示されている3段階による評価を実施する。 ・数学・英語においては習熟度別クラス編成を行い、個々の学力に応じた学習指導を行うと同時に確かな学力の定着を図る。 ・図書研修課と連携して研究授業の実施と教科間での授業研究を実施する。	B	・生徒1人1台端末を使って、生徒に学習に対する興味・関心を持たせる授業に取り組めた。 先生方でICT機器を積極的に活用した授業改善に努めていただいた。二学期末の欠点保有者が大幅に減少した。 ・教員のICT機器活用のスキルアップのための研修会を年間2回実施する。 (A:3回 B:2回 C:1回) ・新学習指導要領に示されている3段階による評価を取り入れた評価方法について各教科で実施できた。 ・数学・英語においては習熟度別クラス編成を行い、個々の学力に応じた学習指導を行うと同時に確かな学力の定着を図れた。 図書研修課と連携して研究授業の実施と教科間での授業研究を実施する。	・令和5年度は1年生、2年生が新学習指導要領に則った教育課程となる。今年度実施した評価方法についても改善を行っていく。 ・教員のICT機器活用のスキルアップに引き続き努め、授業の中での活用方法についての研修会を実施する。 ・来年度も英語、数学科においては習熟度クラス編成、国語、地理歴史・公民科においても少人数クラス編成を実施し、生徒の実態に応じた教科指導を実施する。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

	家庭学習習慣の定着及び基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習時間調査を活用して定期考査期間の学習意識の向上に努める。また、家庭学習習慣の定着を図るため各教科で課題を設定する。</li> <li>漢字テスト平均点85点以上や数学計算テスト平均点75点以上などの具体的な目標を持たせると共に、自主的に学習に取り組む態度を養い、基礎学力の定着を図る。 (漢字テスト A:85点以上、B:84～80点、C:79～75点、D:74～70点、E:70点未満) (数学テスト A:75点以上、B:74～70点、C:69～65点、D:64～60点、E:60点未満)</li> <li>安易な欠席・遅刻をさせず、1か年皆勤者率55%以上を目指す。欠席の多い生徒には、家庭との連絡を密にし、安易に休まないという意識を高めさせる。 (A:55%以上、B:54～50%、C:49～45%、D:44～40%、E:40%未満)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で課題を工夫してもらっているが、平時の家庭学習時間の確保は不十分である。日頃から家庭での学習習慣を身に付けさせる必要がある。</li> <li>漢字テスト平均点77.3点、数学計算テスト平均点71.8点である。クラス、実施する回によって80点以上の成績優秀者が少ない。クラス毎、数学科で指導をしていただいた。日頃の積み重ねが必要である。(漢字テスト評価C:79～75点)(数学テスト評価B:74～70点)</li> <li>新型コロナウイルス感染症不安等により全校皆勤の日は少なかった。二学期末の皆勤率は62.0%であった。担任、学年を中心として欠席した生徒の家庭と連絡を密に取っていただき、心配のある生徒には家庭訪問をするなど早期に対応していただいた。(評価A:55%以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の定着には家庭学習が必要不可欠であり、日頃から家庭学習習慣が身に付くように、各教科で課題を課題の工夫をしていただく。漢字テスト年13回、数学計算テスト年7回実施を予定する。学習をせずにテストに臨むことのないように、クラス、数学科と連携した指導を行う。漢字テストでは平均点80点以上、数学計算テストでは平均点75点以上を目標にする。</li> <li>学習目標や進路目標を持たせ、安易な遅刻や欠席をしないよう、進路課とも連携して目的意識を持たず指導を行いたい。</li> </ul>
3 生徒 指導	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>さわやかで気持ちの良い挨拶や返事、正しい言葉遣いができる生徒を育成する。</li> <li>家庭との連携を深め基本的生活習慣を確立し、いじめや問題行動の未然防止と早期発見に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「正しい言葉遣いや元気な挨拶ができています」では、昨年に続きよい評価であった。</li> <li>「保護者との連携が十分とれている」では、保護者からの評価を得ていて担任の努力が伺える。</li> <li>ここ数年、5分前登校ができていない生徒が減少してきており、基本的生活習慣の確立がなされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員は生徒に対して毅然とした態度で接することを心掛け、規則・マナーを守らせる。</li> <li>様々な場面や集団で、時間・提出期限・身だしなみ・けじめをつける指導を行う。</li> <li>無断アルバイト、深夜徘徊や外泊をさせないよう家庭・地域と連携して、問題行動を未然に防ぐよう努める。</li> </ul>
	個別指導の充実と教育相談の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人面談を1人年間3回以上実施し、きめ細かい心の通う生徒指導に努める。 (A:3回以上、B:2回、C:1回、D:0回)</li> <li>家庭との連携を深め、不登校の未然防止と早期発見に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症に対応して、玄関先での家庭訪問が実施できた。年3回以上の面接を目標に必要に応じて個人面談や家庭訪問を実施している。</li> <li>教育相談課と協力していじめや不登校生徒に適切に対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接週間以外でも生徒の様子を観察し、必要に応じて電話連絡や家庭訪問を行い、いじめ・暴力・不登校の早期発見に努める。</li> </ul>
	自ら行動できる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>規則を遵守できる判断力のある人間の育成に努める。</li> <li>誰が見ても端正で清潔感のある身だしなみを自主的に身に付けることができる学校づくりを目指す。</li> <li>自分の身は自分で守るという意識を持たせ、交通ルールやマナーを守る態度を育てる。教室の整理整頓や、施錠を確実にやる態度を養う。</li> <li>携帯電話使用の適切なルール・マナー・モラルを身に付け使用できる生徒を育成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、生徒の規範意識が高まり、校則や身だしなみの違反者が減少しているが、頭髪については時代に合わせた指導の在り方を考える必要がある。</li> <li>地域からの「元気な挨拶ができ、行動が良くなってきている。」という評価が定着しつつある。</li> <li>自転車通学生の違反・事故は起こっていない。ヘルメットの紐を調整させることと、見えない所で着用していないことについて街頭指導を行った。</li> <li>盗難に備え、教室の整理整頓や移動教室時の施錠する意識を高める必要がある。</li> <li>校内での携帯電話不正使用は、登校時に預ける生徒が多いので、減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HR活動で道徳教育を行い、規範意識を身に付けさせる。また、自主的に身だしなみを整えられるよう意識させ、校外での制服の身だしなみの乱れを減少させる。</li> <li>原付通学生には引き続き安全教室、メーター確認を毎月実施するなど違反・事故防止に努める。</li> <li>教室、部室の鍵の管理は各クラス、部で責任を持って管理できるよう徹底する。</li> <li>HR活動で携帯電話やSNSのルール・マナー・モラルについて指導し、トラブルになりそうなときには、自分たちで解決したり、注意し合えたりできる環境を整えるよう指導したい。</li> </ul>

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

4 特別活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率100%を目指して活性化を図り、学校を元気にする。 (A:100%、B:99~95%、C:94~90%、D:89~85%、E:85%未満)</li> <li>県総体出場者50人以上を目指す。 (A:50人以上、B:49~45人、C:44~40人、D:39~35人、E:35人未満)</li> <li>県高校総合文化祭出場者30人以上を目指す。 (A:30人以上、B:29~25人、C:24~20人、D:19~15人、E:15人未満)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>加入率は99%で目標に限りなく近づいている。</li> <li>県総体へは目標であった50名が参加し、小さな学校としては成果を上げている。高文祭参加者も27名とやや目標を達成できなかったが、生徒数減少の中、大会等において成果を上げている。運動部において、新人大会や選手権大会で、人数が足りなかったが、他の部活に協力してもらい参加できた。文化部も活動時間が確保され、発表会や出品など関係行事への積極的な参加が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動部を文化部ともに意欲的な活動が実践され、学校全体に活気が見られる、今後も両部とも活性化を推し進めたい。昨年度から実施されている「学校の運動部活動に係わる活動方針」に基づいた部活動の運営に取り組むとともに、部員不足解消に向けて知恵を絞りたい。</li> </ul>
	豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動等へ一人年間2回以上自主的に参加することを促し、公共心や思いやりの心を育む。 (A:2回以上、B:1.9~1.5回、C:1.4~1.0回、D:0.9~0.5回、E:0.5未満)</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス対応により、ボランティア活動への参加の機会は少なかった。多くの地域の行事、イベントが中止となってしまったが、可能な範囲で生徒の活動の機会を設けることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動やクラス単位で実施したり、誰でもボランティアに参加しやすいように、情報の提供を行う。</li> </ul>
5 進路指導	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自己の在り方生き方について考え、主体的に進路を選択できるように、体験学習や講習会、進路ガイダンスなどを実施する。</li> <li>3年間を見通した進路指導計画の下、適切な情報提供によって生徒および保護者の進路意識の高揚に努める。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種進路ガイダンス等に積極的に参加させた。特に3年生に対して、個別丁寧な情報提供ができた。</li> <li>生徒への学校評価アンケートでは、「進路情報の収集・活用」の項目の評価が3.6に上昇した(R4・7月は2.4、R3は2.2)。</li> <li>P.T.A総会や懇談会などの機会をとらえ、保護者への情報提供を行うことができたが、より多様でこまめな情報提供の必要性を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2年次の早い段階から進路意識を高められるよう、生徒・保護者へのより多様でこまめな情報提供に取り組む。</li> <li>キャリアパスポートの活用を図り、自己理解に努めさせたい。</li> </ul>
	就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業や職安等の関係機関と連携し、求人確保に努める。</li> <li>応募前職場見学の参加により、就職活動に主体的に取り組ませる。</li> <li>進路講演会やガイダンスに取り組むとともに、面接指導や履歴書指導の充実を努め、就職希望者の決定率100%を目指す。 (A:100%、B:99~90%、C:89~70%、D:69~50%、E:50%未満)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、保護者の希望にそって企業や職安と連携し、新たな就業先の開拓ができた。</li> <li>応募前職場見学に積極的に取り組ませることができた(1人平均2.7社)。</li> <li>進路ガイダンス等を通して、進路意識を高めることができた。</li> <li>就職希望者決定率98%(1月末時点)。</li> <li>適性等の自己理解が不十分で内定に至らなかった生徒がいた。</li> <li>面接や履歴書の指導を、丁寧に行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業、職安等関係機関との連携をさらに深めたい。</li> <li>進路ガイダンス、応募前職場見学等に積極的に取り組ませ、就職に向けた企業理解、自己理解を深めさせたい。</li> <li>学校全体で就職指導に取り組む体制を維持したい。</li> </ul>
	進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人に応じた細やかな個別指導を徹底することで生徒の資質の向上を図り、進学希望者の合格率100%を目指す。 (A:100%、B:99~90%、C:89~70%、D:69~50%、E:50%未満)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人に合わせた個別指導を充実させ、愛媛大学農学部、松山大学経営学部を始めとした生徒の進路希望の実現につなげることができた。</li> <li>進学希望者合格率91%(1月末時点)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学補習、個別指導等を充実させ、学力試験、作文、面接等の指導に学校全体で取り組みたい。</li> </ul>
6 農業教育	資格指導を充実させ確かな力量を確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1資格以上の取得を目指す。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科の科目や特性を生かした資格取得に取り組んだ。合格率が著しく低下した資格があり、指導方法の改善が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得は学習成果の表れであり、生徒の進路実現につなげることを啓発し、資格取得に向けての意欲を喚起する。</li> <li>合格に向けて、意欲の喚起や指導方法の研鑽に励む。</li> </ul>
	農業クラブ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領の内容を踏まえて、各科目においてプロジェクト活動を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト発表では、全国大会に出場するたとともに、各種コンテストにおいても優秀な成績を収めることができた。</li> <li>地域農業の特徴や課題を生かしたプロジェクト活動が始まり、今後の活動内容に期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領では、ほとんどの科目でプロジェクト活動をする事となっているため、学習内容や進度に沿った、プロジェクト活動を実践していきたい。</li> <li>プロジェクト活動を通して、社会性や指導性だけでなく、科学性を身につけさせたい。</li> </ul>

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

	地域に開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業祭や地域行事に積極的に参加し地域住民との交流1万人以上を目指し、地域に貢献する生徒を育成する。 (A:10,000人以上、B:9,999~8,000人、C:7,999~6,000人、D:5,999~5,000人、E:5,000人未満)</li> <li>ホームページ等を利用して、農業教育の魅力や学習成果の情報発信を行う。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との交流活動を、感染対策を取りながら実践することができたが、2年間実施できていない行事が多く、ノウハウの引継ぎが十分にできていないことがあった。</li> <li>地域との交流活動の正常化を通して、メディアに取り上げられたり、ホームページで情報を発信することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な行事を通常通り開催できるようになることを見据えて、学習内容を生かした活動ができるようにしていく。</li> <li>行事によっては交流人数のカウントが難しいものがあるので、評価の仕方を検討する必要がある。</li> </ul>
7 環境 教育	豊かな自然を大切にす る心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境美化に努め、緑豊かで潤いのある学習環境づくりに努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土交通省肱川河川事務所河川愛護モニターの活動を通して、肱川の環境調査や清掃活動を継続して取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も関係機関と協力して、豊かな自然を大切にす る心の育成していききたい。</li> </ul>
	身近な環境問題の解決 に主体的に取り組む生徒 の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>終始徹底した清掃への取組100%を目標に、校内ゴミ0(ゼロ)を目指す。 (A:100~90%、B:89~75%、C:74~60%、D:59~45%、E:44%未満)</li> <li>美化活動に努め、汚させない環境づくりをする。授業を通して環境への意識を高めさせ、身近な環境問題解決への実践活動に取り組む。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>終始徹底した清掃への取組に関する生徒の自己評価は、1学期80%、2学期は84%となっているが、5分前に清掃場所に移動することを徹底させていきたい。</li> <li>美化委員が働きかけるなどして、少しずつ汚さない環境作りの意識を育てたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始・終了時間を徹底し、集中して取り組むようさらに注意喚起をしていきたい。</li> <li>様々な授業や活動を通して環境負荷の少ない生活について考えさせ、行動に移すように促したい。</li> </ul>
8 人権 教育	平和と人権を大切にす る心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒人権委員会の校内外での活動を活発にし、その活動内容を「人権だより」に掲載したり、人権教育集会を通して全校生徒に知らせたりすることにより、校内の人権意識を高揚させ、また、学校のホームページを有効に活用し、人権に関する行事の後できるだけ早く記事を掲載する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権委員の校内外での活動は計画通り実施することができた。特に、校外での活動には積極的に参加し、様々な人権問題について考えを深め、人権意識の向上に努めた。その活動内容や感想を「人権だより」やホームページに掲載したり、人権教育集会で発表したりすることで、保護者や地域の方に発信することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は、人権委員が活動できる場を可能な限り設定したい。他校や異校種との交流も視野に入れ、委員会活動を充実させたい。</li> </ul>
	教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめと教育相談に関するアンケート」を学期に1回実施し、いじめや悩みの実態把握といじめの早期発見・早期解決を図る。</li> <li>生徒が気軽に教育相談室を利用できるように、環境を整えておく。また、教育相談室にはカウンセラーが常駐するようにしておく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめに関するアンケートは、各学期に1回実施し、いじめの早期発見・早期解決を図ることができた。</li> <li>生徒が気軽に教育相談室を利用できるように、いつも環境を整えておくことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も、いじめに関するアンケートの回収、処理と分析を迅速に行い、いじめの早期発見・早期解決につなげていく。また、ホームルーム担任や養護教諭、スクールライフアドバイザーとの連携を密にしていく。</li> </ul>
	家庭や地域と連携した 人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権・同和教育ホームルーム活動等の人権に関する公開授業を、年間4回以上実施する。また、多くの保護者に参観してもらえるように内容や案内等を工夫する。さらに、「人権だより」に保護者の意見や感想を掲載することにより、地域や家庭と連携した人権教育を推進する。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間4回実施した人権に関する公開授業に、あまり多くの保護者に来ってもらうことができなかった。しかし、「人権だより」に通信欄を設け、保護者に意見や感想等を記入していただくことで、双方向のやりとりが生まれ、次の活動につなげることができた。今後も継続していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は、人権に関する公開授業に多くの保護者に来ってもらうように、行事の日時や内容の工夫を検討したい。</li> </ul>
9 情報 教育	情報活用能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒1人1台のパソコンの導入に伴い、知識や活用技術を身に付け、授業に活用できる能力を養う。</li> <li>情報セキュリティに対する教職員の意識を高め、ICTの普及に対する適応力を養う。</li> <li>HPやSNSを活用し学校の情報を積極的に発信する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響で、学校におけるICT機器の活用を一気に進めることができた。校内での研修会等により、教職員の意識や技能は確実に向上している。</li> <li>HPは毎日の更新を目標に各担当の学年・課で頑張ることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員のICT関連の研修会を実施し、リモート授業等が普通に行えるように、より一層の活用を図れるよう努力したい。</li> <li>ホームページの更新をふやし、充実を更に徹底したい。</li> </ul>
	情報モラル・コミュニ ケーション能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコンやスマートフォン等を用いたインターネット、特にSNSの利用について具体的な研修を行い、生徒の情報モラル・コミュニケーション能力の育成を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>Teamsやロイロノートの導入などで、生徒が学習に1人1台のPCやスマートフォンを利用する機会も増えてきているため、情報モラルの育成を第一に考えた研修の機会が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報Iの授業を通して、HPやプレゼンテーションの作成、プログラミングや表計算ソフトの関数の活用など、ICT技術は向上していると思うが、インターネット上のコンテンツを無造作に使うなど、著作権や肖像権についての理解を深めていきたい。</li> </ul>

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

10 図書 指導	読書習慣の定着	朝の読書に学校全体で取り組み、活字メディアへの興味・関心を高め、日常生活の中で読書に親しむ態度を育てる。	C	朝読書に学校全体で取り組むことができた。読書アンケートで、朝読書で読んだ冊数が2冊以下の生徒が62%（昨年度20%）と、読んだ冊数が少ない生徒が大幅に増加してしまった。	読書習慣を確立するため、朝読書の時間をしっかりと確保し、学校全体で引き続き朝読書に取り組んでいきたい。
	図書館利用の推進	授業等、様々な場面で図書館を活用する機会を増やす。 図書の出張貸出や多様な本の紹介などを行い、図書委員会活動を充実させる。	C	国語科など各教科の授業で図書館を活用することができた。 読書感想文発表会のブックトークや校内掲示を通して、本の紹介を行うことができた。	授業を始めとして、様々な場面で生徒にも先生方にも図書館を利用してもらえるような働きかけを工夫したい。 本の出張貸出などの取組を充実していきたい。
11 学校 保健 学校 安全	心身の健康の保持増進	保健指導や保健委員会活動を充実させ、自らの健康に関心を持ち、管理できる力を養う。 健康診断結果や保健室来室状況等をもとに、生徒の心身の健康課題の早期発見、早期対応を図る。	B	毎月保健だよりを発行し、健康に関する知識を生徒に提供した。保健委員会では感染症対策や掲示物作成などを行い、健康への関心を高めることができた。 相談に訪れた生徒については、関係する先生方と連携を図りながら個別の対応を行った。	時期に合わせて健康に関する情報を啓発すると共に、保健委員活動を充実させる。 二次検査の受診率を高めるために個別の声掛けを進める。各検診時には、治療だけでなく疾病予防の観点も含めて指導したい。
	学校の安全管理と環境衛生管理の徹底	校内の安全点検（月1回）と実践的な避難訓練を実施し、安全のために自ら考えて行動する力を育成する。 感染症対策と環境衛生検査を確実にし、校内環境の維持や改善に努める。	B	毎月、校内の安全点検を行い、危険箇所や消火器の有無を確認できた。計画している年2回の避難訓練に加えて、原子力の避難訓練も実施して安全意識を高めることができた。 毎日校内の消毒を行い、感染症対策を行った。学校薬剤師の先生に助言をいただきながら、保健委員と定期的環境衛生検査を行った。	定期的な点検で校内の安全を確認すると共に、消防署と連携を取りながらより実践的な避難訓練を実施する。 日常点検や定期検査を計画的に行い、校内の環境衛生を良好に保つよう努める。
12 学校 行政	施設設備の充実と施設維持管理経費の節減	トイレの洋式化を推進する。 学校運営費の節約に努め、効率的・効果的な運用に努める。	C	食品デザイン科教棟女子トイレ洋式化工事完了物価高騰により予算執行は厳しい状況であるが教育活動に支障が出ないよう努めた。	安全に教育活動ができるよう、修繕等早急な対応に努める。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。